

「大反転」する世界

～以下、書評「大反転する世界（ミシェル・ボー<35年生まれ/パリ大名誉教授>著）」

（山田鋭夫<名大教授>評）＜日経新聞（02.6.9）＞より～

注：・・・・・・は省略部分。太字は引用者が強調のためにそうしました。

資本主義と人類との亀裂を懸念

・・・・・・社会主義が崩壊しグローバル化が進展した1990年代以降、現代史は急激に「大反転」しつつある・・・・・・。

二つのみ例示しよう。一つは「商品化」の加速。近年、情報通信やバイオなど、新しいテクノロジーにもとづく新しい商品群が続々と登場した。そこにあるのは、資本主義が科学・技術を総動員したテクノ資本主義として、臓器から知識まで万物を商品化しつつ、途方もなく自己を拡大した姿である。第二は「不平等化」であり、これは世界総所得の分配にかんする国連の数字に生々しい。1969年と94年を比較すると、最貧困の20%の人たちの取り分は2・3%から1・1%に低下し、逆に最富裕の20%の人たちのそれは69%から86%に上昇した。25年間で格差は、30倍から75倍になった。

商品化と不平等化がセットになって、現代世界は暴走を始めたのである。資本主義は自らのタガを外してしまった。それがこの大反転の時代だが、・・・・・・その奥にもっと大きな危機・・・・・・。「地球・人類・資本主義」・・・・・・の三つはそれぞれに自己再生産能力をそなえた系をなしていた。しかし今日、「**資本主義**」の**拡大再生産**によって、「**地球**」の**再生産**が**攪乱**（かくらん）され（**環境問題**）、また「**人類**」の**再生産**が**脅威**にさらされている（**貧富格差の拡大**）。しかも、**頼みの政治は、すっかり統治能力を失っている**。・・・・・・資本主義の層と地球・人類の層との亀裂と対立・・・・・・新しい責任倫理を問う・・・・・・。